

令和元年度 学校評価（最終報告）

重点目標	学習に対する姿勢を整え、学力の向上を図るとともに、家庭や地域との連携を踏まえた学校教育活動全般の改善に努め、凛として清々しい個と品格ある校風づくりの確立を目指す。また、職員間の協力体制の在り方を検討し、勤務時間の適正な管理と教職員の適切なメンタルヘルスに努める。 1 家庭や地域から信頼される学校づくり 2 生徒の夢を実現できる学校づくり 3 品格ある校風づくり		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果・今後の課題
P T A活動と 防災 (総務部)	P T A活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A活動に会員が積極的に関わることのできる活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員会、評議員会等を通して、本校の教育活動への理解を深めることができた。しかし、仕事を休んで P T A活動に参加される方も多く、役員や評議員を引き受けることのできる保護者が減っている。
	災害に備えての 対策と体制作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後見直されていく予定となっている文科省や教育委員会の防災指針に、迅速に対応していく。 ・ 防災訓練や、安否確認の体制作りの中で、生徒、保護者、教職員の防災意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年別防災倉庫を設置し、備蓄品の配布を現実的なものにすることができた。 ・ 「避難所開設初動期対応マニュアル」の作成、および、生徒の帰宅方法を想定した防災避難訓練を行った。今後は、地域や市との連携のありかたも、模索していきたい。
校務支援 システム (教務部)	校務支援システムによる指導要録の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムにより指導要録の作成を電子化する。 ・ コンピュータデータの活用により各種表簿の作成を効率化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導要録については、年度進行で第2学年まで進んでいる。移行期であり、やや煩雑になっているが、来年度は基本的に校務支援システムを全面導入していきたい。
進路指導 (進路指導部)	高い進路目標の 確立と実現に向 けての指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路意識を確立して、高い進路希望を実現させる。 ・ 基礎学力のさらなる充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての指導はしたが、その実現に至るまでの学力の向上に対して、今後も学年・教科と連携し、さらなる努力が必要である。
	チームとしての 進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者向け進路説明会や保護者会を充実させる。 ・ 地域連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者向け進路説明会への参加者は、特に普通科が多く、保護者の進路に関する情報への高さがうかがえた。
生徒指導と 生徒会活動 (生徒指導部)	いじめ防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめを防止するために、他の分掌と連携を密にして、全職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査、日常的な観察及び生徒の情報交換会の機会を増やし、いじめの早期発見・早期対応に努めた。
	高校生らしい身 だしなみと交通 安全意識の向上 を図り、地域か ら愛され応援さ れる学校の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールを明確にし、全職員の協力体制を確立する。 ・ 自転車ルールの遵守と交通マナーの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な機会を捉えて本校のルールに沿った指導を展開することができた。遅刻数の増加が本年度も続いているため、次年度も継続的に指導する必要がある。 ・ 交通安全指導や事故報告、外部からの意見を機会として捉え、交通ルール・マナーの向上に努めた。今後も継続的な指導が必要である。
	生徒会がリーダ ーシップを取り 校内外の体験的 な活動へ積極的 に参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事に取り組む意識・意欲を高めつつ、自らが積極的に行動するように図る。 ・ 校内外のボランティア活動への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な行事で、生徒会が中心となって進めることができた。今年度は、豊陵祭の最後に後夜祭を実施した。生徒会が中心となって企画・運営をし、来年度も実施したいとのせいとから声が上がった。
情報管理と 図書指導 (情報研修部)	情報化の推進お よび教員の資質 の向上につながる 研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページを活用しての情報発信を活発化する。 ・ 教員の I C T活用には有効な研修を企画し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初は順調に更新できたがネットワーク工事により年度後半は十分な情報発信ができなかった。 ・ 更新された教員用パソコンとタブレットの活用について研修を行った。
	図書館の有効利 用と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館報や図書委員会を通じて図書館の魅力を周知する。 ・ 蔵書図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館だよりの内容を充実させ、生徒が関心が図書館に向くように努めた。 ・ 生徒や職員の図書委員会で検討を重ね、生徒にとって魅力的な新規購入図書を選定した。
保健指導と 教育相談 (保健厚生部)	生徒保健委員会 の活動の活発化 と生徒全体の健 康や清掃に対す る意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの分別を徹底させる。 ・ エアコン使用時等に教室の換気を徹底させ、インフルエンザ等の予防を図る。 ・ 保健だよりを発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健委員およびゴミ捨ての生徒を通じてゴミの分別を指導し概ね良好だったが徹底出来たとは言えない状況であった。 ・ 教室の喚起について徹底することが出来た。 ・ 生徒保健委員が十分検討し充実した内容の保健だよりを発行することが出来た。
	教育相談が必要 な生徒の情報の 共有化と早期の 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席の多い生徒の情報を収集し、早期に対応する。 ・ 相談室の利用を促進する。 ・ スクールカウンセラーとの連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月、欠席の多い生徒および配慮を要する生徒について、担任から情報を集約し全職員に報告することが出来た。また、必要に応じて相談委員会を実施し早期対応に努めることが出来た。 ・ 相談室の利用促進に努めることが出来た。また、スクールカウンセラーとの連携を十分に図ることが出来た。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果・今後の課題
学科指導 (生活文化科)	コース別の特性を活かした魅力ある授業内容の確立	<ul style="list-style-type: none"> 各コースの特性に応じた実践的・体験的授業の充実を図り、資格取得を目指す。 外部講師による講習会を適切な時期に実施し、より専門的な知識・技術の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> コース選択後の2年間を見通した、知識・技術力の定着を目指し、基礎から応用へ着実につなげることで、資格取得で高い合格率に結び付けた。 資格取得の時期に合わせて外部講師による講習会を実施したことで、基本的な知識・技術の定着の確認ができ、より積極的な取り組みが見られた。
	地域との連携に重点を置いた、スペシャリストを目指す生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関する取り組みの拡大を図り、職業人としての視野を広げ、意識を高める。 事前・事後指導に力を入れ、キャリア教育の成果に関する発表・討論を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の課題研究でインターンシップの拡大を図ることで、より具体的な就労観を養うことができた。 事後指導としてインターンシップの報告をクラス内で行っており、その成果は十分認められているが、より多くの人に発信できる発表・報告の方法を検討したい。
1年生指導 (第1学年)	基本的な生活習慣と規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> 高校生の本分を中心にした生活習慣を確立し、自己管理能力を育成する。 校則を遵守し、豊丘高校の一員として、落ち着いた学校生活を送らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が概ね良好で、全体的には落ち着いた学校生活を送っているが、個々の生徒に目を向けると、まだまだ不安定な部分があり、個別の丁寧な指導が必要である。各分掌とも協力し、次年度以降も引き続き継続指導をする。
	学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 予習をして授業に臨み、復習して学習内容を定着させるよう、家庭学習の習慣化を図る。 授業に意欲的に臨み、主体的かつ能動的に学習する態度を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組みは良好で、意欲的に学習する生徒も多いが、家庭学習の定着はまだ不十分である。課題の出し方、定期テストや模試の振り返り学習などを通して次年度も継続的に指導する。 来年度の類型科目選択を意識させながら、主体的な学習に結び付けた。
2年生指導 (第2学年)	社会人としての基礎力の養成	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立させる。 授業規律を徹底し、教室環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が概ね良好であるが、まだ確立できていない生徒もいる。次年度も継続的に指導する。 行事ごとにロッカー周辺の整頓などを心がけさせ、概ね良好であった。また掲示物について教科、分掌と協力し、工夫を凝らしたものにした。しかし、予鈴での着席は不十分である。
	将来を見通し、努力できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標を明確にさせる。 学習習慣を確立し、学力の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度のコースやクラスを意識した面接指導や高大連携事業や産学連携事業などから、少しずつ自身の進路目標を明確にさせることができた。 計画的に学習を行い、着実に力をつけた生徒が増えた一方で、学習習慣が乏しく、課題の提出が不十分な生徒も残っている。次年度も継続的に指導する。
3年生指導 (第3学年)	社会人としての基礎力の確立	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。 社会性や公共心を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が、良好な生活を送ることができたが、ごく少数ではあるが、不安定さが目立つ者もいる。 進路研究・指導や出願指導など様々な機会を通して、生徒の社会性や公共心の育成を図った。多くの生徒が身に付けてきている。
	個人の能力伸長と進路目標実現	<ul style="list-style-type: none"> 学力を充実させ、進路目標を実現させる。 特別活動に積極的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日、土曜学習会、課外を通して生徒の学力を充実させることができた。また、生徒との面談を重ね、進路目標の実現に向けた指導も行った。 学校の様々な行事などにおいて、全員で協力し合いながら積極的に取り組む雰囲気が醸成されていた。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域から信頼される学校づくりを目指した方策と実践について 特色ある学校作りと地域連携について 	